英書シリーズ：Springer Briefs in Population Studies

日本人口学会編：「日本の人口学研究」

*Population Studies of Japan*

創刊と編集委員会の運営・執筆者募集のお知らせ

　　　　　　　　　　　　　　原　俊彦（日本人口学会会長・編集委員長）

１．創刊のごあいさつ

国連によれば、2060年までに世界の人口は、さらに39.4%増加し、96億人に達する(UN World Population Prospects, revised 2010)といわれています。その一方、日本の人口は、現在の3分2、8670万人まで減少し、高齢化率（65歳以上の高齢者が総人口に占める割合）は約40％、年少人口割合も10％を切ると推計されています（国立社会保障・人口問題研究所　2012推計）。

すでにポスト人口転換期に突入した日本は、ドイツやロシアとともに、旧東ブロック、東アジアなどの国々に先行する形で、世界で最も急速な人口減少に直面しようとしています。

この人口減少は、急速な人口高齢化をともなうものであり、一国の経済成長はもとより、労働市場、年金制度、税制、保健医療・介護、住宅など、様々な分野に多大な影響をもたらします。また一国の社会構造や地理的分布を急激に変化させると考えられます。従って、それらの変化が引き起こす社会経済的問題に対処しうる、短期的・中長期的な解決策が緊急に求められているといえるでしょう。

　このシリーズは、ポスト人口転換期に突入した日本と、そこにおける人口研究の最前線に、世界的な関心を喚起することをねらいとしています。また英書シリーズ刊行特別編集委員会を組織し、日本人口学会編として監修し、コンパクトな、モノグラフとして、Springer社から契約出版するものです。

　1947年に設立された日本人口学会は、日本の人口研究に関わる広範な分野の専門研究者を組織しており、主要な領域としては、（１）人口構造と高齢化（２）人口移動、都市化、人口分布（３）出生力（４）死亡力と疾病率（５）結婚・家族・世帯（６）労働力と失業（７）人口推計・人口政策（家族政策を含む）（８）歴史人口学などがあります。すでに1978年から『人口学研究』を出版して来ましたが、大部分の記事や論文は日本語で書かれたものであり、海外の研究者には、あまり知られてきませんでした。

　このような事情から、このシリーズでは、日本の人口にかかわる問題、社会経済変動、政策・施策など、すべての領域を扱います。そこには高齢化や低出生力、家族形成、世帯構造、健康・衛生、死亡・寿命、人口地理、地域人口、国際比較なども含まれます。

このシリーズが、人口学はもとより、地理学、社会学、経済学、政策科学、保健衛生など、ポスト人口転換期に直面する、世界の多くの研究者の関心を集めることを願っております。

２．出版・企画の進行状況

　シリーズの最新の進行状況については、次のホームページを参照して下さい。

<http://www.springer.com/series/13101>

３.　編集委員会の運営・執筆者募集

1. 編集委員会の運営

日本人口学会では、理事会の承認を得て、英書シリーズ刊行特別編集委員会を組織し、このシリーズの企画、編集、執筆アドバイスを行っています。特別編集委員会は、「人口学研究」の編集委員会とは別に組織され、編集委員長と編集委員からなります。編集委員長、編集委員は、随時、更新されます。また、可能な限り、人口学研究の各分野を代表する形を取りたいと考えています。

（２）執筆者募集・投稿資格

　執筆を希望する方は、学会ホームページから執筆企画書の書式をダウンロードし、ご自分の企画を記入に、必要書類（英文履歴書、英文原稿見本）を添えて、ご希望の編集委員または編集委員長に投稿してください。各編集委員または編集委員長が、必要に応じ、アドバイスし、出版企画の推薦の可否を検討します。編集委員は、推薦書を付け、企画書をSpringer Japanの編集者に送付します。送付された企画は、さらに出版社側の編集会議で審議され、出版が決まった段階で、著者と出版社との間で出版契約が結ばれます。なお、推薦者となる編集委員は、出版される本の原稿を最終的にチェックし、編集委員会としての出版許可を出します。

　なお、投稿は人口学会会員に限らず、国内・国外を問わず、日本における人口研究に資するすべて研究者に認められますが、非会員の方は出版許可を得た後、すみやかに入会手続きをされるようお願い致します。

（３）執筆・送稿

　契約の段階で、改めて出版時期などを調整しますが、基本的に、契約後、一年以内に出版となります（契約後、直ちに出版企画が出版社のホームページに掲載されるので、かなりの心理的なプレッシャーが掛かります）。

　執筆は、Springer の執筆要領に従って下さい（先方から情報が来ます）。

　執筆完了（ネイテイブ・チェックは自費です）・入稿後はネットを通じて、Springer 側の編集者と原稿の校正・編集を行います。

（４）分量・内容上の制約

　モノグラムシリーズですので、1冊につき、最低50ページから最大125ページ（図表など全部こみ）という制約があります。これを超える場合は分冊にする必要があります。

　分担執筆は可能ですが、編者なしの共著の形となります。

　すでに発表した論文などをそのまま掲載する、また日本語で書いた論文をそのまま英訳することはできませんが、複数の既発表論文を組み合わせ、もとの内容に30％以上加えて出版することは可能です。また既発表論文の内容を補足し本としてまとめる、未出版の博士論文を本にすることも可能です。

日本語引用文献：履歴書（CV)に記載する肩書や業績、プロポーザルでの引用、本文の参考文献などで、日本語のものは、ローマ字表記の後に括弧書で英訳を記載すれば問題ありません。

（５）企画書・履歴書・英文サンプル

　企画書のフォーマット：[Questionnaire\_Population Studies of Japan.doc](http://www.paoj.org/questionnaire_population_studies_of_japan.doc)

　（クリックしてダウンロード）。

　投稿には、このAuthor Questionnaire (Book Proposal)の他に、英文サンプル・チャプター（30頁ほど，概要があればなお良い），または英文ライティング・サンプル（30頁ほど）（英語で書いた論文があれば、そのPDFファイルでOK）、著者の英文CV（履歴書：形式自由、大学のHPのプロフィール程度で良い）の3点セットが必要です。

（６）その他条件

執筆原稿の英文校正は著者負担となっています（結構な金額になります）が、それ以外の支出（買い取りなど）はありません。ただし、印税については、初版のみ、著者　200EURO、人口学会に200EUROが支払われます。また契約期間中、著者は自著だけでなく、他のSpringerの本も33% オフになります。本は電子ブックと紙（オンディマンドで発行）で出版されます（絶版がありません）。なお、出版後は同じ著作物をそのまま他の出版社から出すことはできなくなります。

４．コンタクト先

　出版企画書の送付、事前相談などは、以下の編集委員、または Springer JP編集部へメールでお願います。

編集委員長　Editor-in-Chief

原　俊彦（札幌市立大学）

Toshihiko Hara, Sapporo, Japan

t.hara@scu.ac.jp

編集委員　Series Editor

安藏伸治（明治大学）

Shinji Anzo, Tokyo, Japan

anzo@meiji.ac.jp

編集委員　Series Editor

加藤久和（明治大学）

Hisakazu Kato, Tokyo, Japan

hkato@kisc.meiji.ac.jp

編集委員　Series Editor

津谷典子（慶應義塾大学）

Noriko Tsuya, Tokyo, Japan

tsuya@econ.keio.ac.jp

編集委員　Series Editor

Toru Suzuki, Tokyo, Japan

鈴木透（国立社会保障・人口問題研究所）

suzuki-t@ipss.go.jp

編集委員　Series Editor

和田光平（中央大学）

Kohei Wada, Tokyo, Japan

wada@tamacc.chuo-u.ac.jp

編集委員　Series Editor

稲葉　寿（東京大学）

Hisashi INABA, Tokyo, Japan

inaba@ms.u-tokyo.ac.jp

編集委員　Series Editor

中澤　港（神戸大学）

Minato Nakazawa, Kobe, Japan

minato-nakazawa@umin.net>

シュプリンガー・ジャパン　編集部　平地豊  
[yutaka.hirachi@springer.com](javascript:%20mailViewer.compose(%22yutaka.hirachi%40springer.com%22);)

（以上）